

令和4年度 研究の概要

第四錦林小学校研究部

学校教育目標

自ら考え判断し，自信をもって行動する子を育てる

1 研究主題

情報活用能力を發揮して，自信をもって表現する子の育成
～GIGA 端末を活用した，主体的・対話的で深い学びをとおして～

2 研究仮説

これまでの研究で大切にされてきた「生徒指導三機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する）」は、学級経営、授業づくりの基本とし、日々の教育活動全体を通して児童の「自己指導力」を高めていくことは変わらない。その上で、GIGA 端末を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させていく。それにより、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりを行う。このような学習活動を通して身につけた「情報活用能力」を發揮すれば、自らの考えや判断の根拠を持つことができ「やってみよう」とチャレンジする子を育てることができるのではないだろうか。

3 研究主題設定の理由

本校児童の特徴として、大人から言われたことは守り、頑張ろうとする姿が見られ、友だちとも仲よくしよう、やさしくしようとして行動し、真面目で穏やかな子が多い。反面、自分に自信がもてずに教師や大人の判断を待ったり、友だちの言動に影響を受け、安易な方に流されたりすることが多い。また、自分の思いを表現したり伝えたりすることが苦手で、相手を傷つける言葉や手を出してしまう行動に表れるなど、個別の支援を必要とする児童への適切な指導・支援も求められる。

このような背景から、学校教育目標を「自ら考え判断し，自信をもって行動する子を育てる」と掲げ、将来の予測が困難な時代にも、多様な他者と関わりながら、自律して行動できる力を備えた子どもの育成をめざしている。そして、Society5.0 時代を生きるデジタル・ネイティブな子どもたちが、デジタル社会の一員として、よりよい社会を築いてほしいと願う。

本研究では、「情報活用能力を發揮して，自信をもって表現する子の育成～GIGA 端末を活用した，主体的・対話的で深い学びをめざす授業改善～」を目的とし、情報活用能力を「表現力」からアプローチする。「表現力」に焦点を当て、情報活用の一連の学習活動を何度も繰り返す、探究的な学習を進めることで、学習の基盤となる情報活用能力の厚みが増してくると思う。そのためには、中教審答申（令和3年1月）で言われているように、GIGA 端末を活用して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びをめざして授業改善に取り組むことが求められる。

子どもたちに確かな情報活用能力を育成し、それをあらゆる学習活動で發揮させ、学校教育目標に掲げる子どもの育成をめざしていきたい。

<h2>目指す子ども像</h2>	自ら学ぶ子・・自分で考え行動する子 やさしい子・・人の言葉に耳をかたむける子 元気な子・・心も体も健康な子
------------------	---

本年度教育活動全般において重視する視点	
GIGA スクール構想の推進	地域と連携した持続可能な教育活動(SDGs)

自ら考え判断し、自信をもって行動する子を育てる

校内研究会

校長 教頭 教務 研究部 GIGA 推進チーム
 生徒指導部・特活部 総合育成支援部 人権教育部 各教科主任

研究部

【授業研究チーム】

【学力分析・基礎学力チーム】

各部会の働きと連携

研究

【授業研究チーム】

- ・年間7回の校内研究授業および事後研究会の実施
- ・校内研修会(理論・実技)の企画および運営
- ・取組評価 (PDCA サイクルの構築)

【学力分析・基礎学力チーム】

- ・各種調査を分析し、評価を行う。
- ・表現力についての評価指標の作成。
- ・学力定着に向け家庭学習や帯時間の学習の提案

GIGA 推進チーム

- ・タブレット端末活用計画の策定
- ・タブレット端末活用実践研修
- ・GIGA スクール構想にまつわる理論研修
- ・各学級のメディア活用サポート

総合育成支援部

- ・支援が必要な児童情報の共有およびケース会議
- ・総合育成支援に関わる全校取組の提案・運営
- ・校内研修会の企画・運営
- ・個別の指導計画の管理

人権教育部

- ・各領域からの全校取組提案および運営
- ・全校取組への環境整備
- ・校内研修会の企画および運営
- ・人権啓発参観, 事後啓発の企画および運営

生指・特活部

- ・生徒指導問題の共有およびケース会議の実施
- ・生指, 特活に関わる全校取組の提案・運営
- ・児童会活動の企画, 運営
- ・いじめ, 不登校対策委員会の運営

5 研究計画

	内 容
4月	4月8日 第1回校内研究会 研究の概要の提案・情報モラル教育年間計画・基礎学力チームより教室環境、家庭学習、帯時間の学習の提案・公開授業年間計画作成に向けた希望調査 4月11日 第2回校内研究会 関連単元配列表・資質能力育成の作成 4月14日 第3回校内研究会 理論研修 (情報主事? 大学講師?) 情報活用能力とは
5月	5月16日～17日 山の家宿泊学習 (5年) 5月26日 第4回校内研究会 6月授業の検討会・事前指導
6月	6月1日～2日 修学旅行 (6年) 6月23日 第1回校内研究授業公開 (4年) 6月23日 第5回校内研究会 (学力分析・評価チームより 評価指標についての提案)
7月	児童アンケート① (学校評価アンケート) ・教員アンケート①実施 7月7日 第5回校内研究会 (自由研究発表会に向けて・夏休みの宿題についての提案) 7月21日 第6回校内研究会 (関連単元配列表のふりかえり) 夏季各種研修会・講座への参加
8月	支部研究発表授業 イメージ会議 8月18日～24日の間 第7回校内研究会 (学力分析? 夏季研修等の伝達研修?) 夏休み以降の授業公開について、主事派遣を依頼しての事前指導
9月	9月6日～8日 自由研究発表会 第8回校内研究会 9月22日 第2回校内研究授業公開 (6年)
10月	10月4日 スポーツフェスティバル (平日午前開催) 第9回校内研究会 10月27日 第3回校内研究授業公開 (1年)
11月	11月25日 学習発表会 → 各学年の学習進度に合わせて日程調整 第10回校内研究会 11月24日 第4回校内研究授業公開 (育成)
12月	児童アンケート② (学校評価アンケート) ・教員アンケート②実施
1月	1月10日 第11回校内研究会 関連単元配列表のふりかえり・研究発表会に向けてのまとめ 2月2日 第12回校内研究会 支部研究発表会準備
2月	2月7日 支部研究発表会 2月7日 第5・6・7回校内研究 (2・3・5年) 児童アンケート③ (学校評価アンケート) ・教員アンケート③実施
3月	3月9日 第13回校内研究会 研究のまとめ (年間反省・アンケート分析・来年度に向けて) 関連単元配列表のふりかえり・総合的な学習の時間のふりかえりと単元構想の練り直し・情報モラル教育のふりかえりと年間計画の見直し (研究冊子作成)

【校内研究会の流れ】

- ①イメージ会議 → 指導案作成 …… 授業日30日前 前後
(学年+研究主任+GIGA推進担当+各教科主任)
- ②専門主事 事前指導助言 …… 授業日3週間前
(学年+研究主任+GIGA推進担当)
- ③事前授業 → 事前授業事後検討会 …… 授業日2週間前
(学年+研究主任 or GIGA推進担当)
- ④指導案完成・提出 …… 授業日1週間前
- ⑤一部授業公開 (学年部希望者+研究主任 or GIGA推進担当) → 事後研究会 (全教職員)

○カリキュラムマネジメント (既習単元および他教科領域との横断型授業の構築)

「自ら考え 判断し、行動する子を育てる」ために、既習単元および他教科領域との横断型授業を構築する。付けた力を逆算的に捉え、学びをつなげていくとともに、学びのPDCAサイクルを展開する。授業の中では、既習単元および他教科との横断型授業の構築を行うことで児童がより意欲をもって、主体的に (自分で考え、判断して) 活動に取り組むことができるようにする。また、再理解の機会や思考の深まりを促

す。

例 国語科 ⇔ 学級活動（話し合い活動）

国語科：自分の考えを他者との交流活動を通して推敲する
⇔ 学級活動：他者の考えをふまえ、よりよい出口を模索する。

例 算数 ⇔ 図画工作

算数：既習の学習事項を生かして問題解決をする
⇔ 図画工作：既習事項やこれまでの生活経験をもとに表現方法を工夫する

○児童が伸びを実感できる指導・相互評価の工夫

「できること」ばかりを取り上げるのではなく、「できるようになったこと」「意図をもって取り組もうとしていること」「考えの根拠や過程」を大切にする。

→ 児童の実態・課題を明確にし、スモールステップで意欲をもって取り組める指導

例 体育科の相互評価

難度の高い技能をお手本のように紹介するばかりではなく、
これまではできなかったことが出来るようになった姿を紹介し認め合う。

例 図画工作科の相互評価

技能の高い作品をお手本のように紹介するばかりではなく、
着眼点の面白さ、工夫しようと試みている姿を紹介し認め合う。

○「振り返り」の充実

- ・振り返りの時間の十分な確保
- ・振り返りの視点の明確化 → めあてとの結びつき
- ・板書およびノートの系統化
- ・振り返りシートの活用
- ・机間指導による意図的指名

○研究成果の評価

アンケート結果を分析し、研究の成果と課題、児童の変容を検証する。
児童アンケート、教員アンケート調査を行い、その結果をもとに指導方法のあり方を検討したり、成果と課題、児童の変容を明らかにしたりする。また、アンケート結果の経年比較により効果的な指導の在り方について検証する。